

# 第4回こまき検定 問題一覧と解説文

次の60問の中から、検定当日30問を出題します。  内の解説文を  
しっかり読んで、学習をしましょう。

- 1 明治22年(1889)の新町村制の実施で、味岡地区においては、岩崎村・久保一色村・味岡村の三村となりました。これら三村は明治39年(1906)の町村合併により一つの村になりましたが、その村の名前は何でしょうか。

明治39年(1906)に岩崎村・久保一色村・味岡村が町村合併して発足した味岡村は、昭和30年(1955)に小牧町・篠岡村と合併し、小牧市になるまで続けました。その後昭和38年(1963)には北里村を合併し、現在の小牧市域となりました。

- 2 桜井会館の敷地に「歌碑」が建っています。この歌碑の和歌を詠んだとされる人物は誰でしょう。

西行は、僧であった伯父の恭栄(教学)に会うため春日寺を訪ねました。しかしその時すでに伯父は亡くなっており、その霊をとむらうために小牧にしばし滞在していたと言われています。その際、3首の和歌を詠んだとされていて、その1首に桜井の名が詠み込まれていたため、それを記念して歌碑が建てられました。「小せりつむ 沢の氷の ひたまえて 春めきそむる 桜井の里」

- 3 小牧市東部の篠岡地区は、7世紀から11世紀にかけて、尾張地方の窯業生産の中心地でした。110基以上の窯跡が見つかり、それらは篠岡古窯跡群と呼ばれています。この地域の窯は半地下式のものですが、何と呼ばれていましたか。

篠岡地区は、7世紀から11世紀にかけて、猿投窯とならんで尾張地方の窯業生産の中心地でした。窯は丘陵の斜面に細長い溝状の穴を掘り、粘土で天井をつくった半地下式の「あな窯」と呼ばれるもので、7～8世紀には須恵器が、9世紀後半からは灰釉陶器が焼かれていました。篠岡78号窯から出土した須恵器に書かれた文字が、奈良藤原京で出土した須恵器にあった文字とよく似ており、篠岡の器が遠く奈良まで運ばれていたことが分かっています。

4 県 営名古屋空港が、姉妹空港を提携している空港はどこでしょう。

県 営名古屋空港は、アメリカ合衆国ワシントン州のモーゼスレイク市にあるグラント・カウンティ国際空港と、平成28年(2016)10月に姉妹空港提携をおこなっています。

5 小牧市消防団は、いくつの分団から成り立っているでしょう。

小牧市消防団は小牧地区、市下地区、味岡地区、篠岡地区、大草地区、北里地区の全部で6つの分団に分かれており、各分団には20人の団員がいます。これら6つの分団と、女性消防団員が所属する本部で小牧市消防団を形成しています。

6 小牧市の陶地区で盛んに作られ、地域名にも入っている果物は何でしょう。

「しのおかの桃」は、実が大きく甘みが強いことで、全国的に知られています。また、篠岡中学校、桃陵中学校、光ヶ丘中学校区域は「桃花台」と呼ばれています。

7 藤島町では、毎年9月に社で祭りが行われています。祭りが行われる社のことを地元の人たちは何と呼んでいるでしょう。

藤島町では、毎年9月中旬に地域住民が「梵天さま」と呼んでいる社で梵天祭りを行っています。祭りの起源や歴史は不明ですが、現在も地元の人たちの手で運営されています。

8 小牧市が目指すまちのイメージとして掲げている、地域のブランドコンセプトは何でしょう。

市民が「愛着や誇りを感じるまち」「住み続けたいと感じるまち」を目指して進めている地域ブランド戦略アクションプラン(2019～2021年度)では、ブランドコンセプトとして「夢・チャレンジ 始まりの地 小牧」を掲げています。

9 小牧市の小中学校の給食に米飯が出るようになったのはいつからでしょう。

小牧市の給食に米飯が出るようになったのは、昭和52年(1977)です。それまではパンが主流でした。小牧市では、その頃は各校に給食室があり、自校での給食提供でした。その後、東部、北部、南部の順に給食センターが建設され、給食がセンターで作られ、各校に配送されるしくみに変わりました。

10 野口にごみ処理場がありますが、その排熱を利用してある施設を運営しています。どのような施設でしょう。

ごみ処理場の排熱を利用して水を温め、温水プールとして利用しています。造波プール、流水プール、スライダーなどがあります。

11 名鉄小牧線には14の駅があり、小牧市内には5つの駅があります。小牧市のもっとも北にある駅の名前は何でしょう。

名鉄小牧駅から、犬山方面(北)と上飯田方面(南)の電車が利用できます。小牧市内には、犬山方面から上飯田方面に向けて、順に田県神社前、味岡、小牧原、小牧、小牧口の5つの駅があります。

12 小牧市を南北に通る国道は、何号でしょう。

国道41号は名古屋市と富山市を結んでおり、全長は約240kmあります。交通量の増加と小牧インターチェンジとのアクセスを考え、小牧山の西側に道幅の広い新しい国道として造られました。現在の国道41号ができる前は、現在県道名古屋犬山線と呼ばれている、江戸時代からの上街道に沿うようにある道路が国道41号でした。

13 県道名古屋犬山線で大山川に架かる橋を「小向橋」と言います。その名の由来は何でしょう。

この橋の北に堀尾孫助が居城としていたとされる南外山城がありました。孫助の母が戦いに赴いた息子の無事な帰りをこの橋のところで待っていたという故事から「子迎え橋」と言われました。その後、この「子迎え橋」が転じて、「小向橋」になったと言われています。

14 小牧市と姉妹都市を結んでいる都市はどこでしょう。

小牧市の姉妹都市は、アメリカ合衆国ミシガン州ワイアンドット市です。友好都市は、北海道二海郡八雲町と大韓民国京畿道安養市です。また、アメリカ合衆国オハイオ州アセンズ市には、平成5年(1993)に中学校海外派遣団10名が訪問しています。

15 小牧市指定有形民俗文化財に指定されている岸田家では、表側の屋根上に神様の祠がまつられていますが、何の神様でしょう。

岸田家は、江戸時代の小牧の町屋の姿を今に伝える貴重な建物です。小牧宿の脇本陣としての機能も果たし、表側の屋根上に火よけの神様である秋葉権現の祠がまつられました。この祠は「屋根神」と呼ばれています。

16 桃花台新交通桃花台線「ピーチライナー」が廃線になったのは何年でしょう。

平成3年(1991)に小牧駅 - 桃花台東駅間7.4kmで開通した「ピーチライナー」は、桃花台ニュータウンの人口が予想していたほど増えなかったなどの理由から赤字が続き、残念ながら平成18年(2006)10月1日に廃線となりました。平成28年(2016)には高架の一部において撤去作業が行われました。

17 平成夏祭りは、毎年夏に開催されてきた祭りです。小牧の友好都市で行われている山車行列を参考に始められました。この友好都市はどこでしょう。

小牧の山車行列は、北海道二海郡八雲町で開催されている北海道三大あんどん祭りの1つ「八雲山車行列」を参考に始められました。約20台もの迫力ある行灯山車とともに、踊りや太鼓などのパフォーマンスで小牧の夏を熱く盛り上げた、東海地方では珍しい行灯山車行列でした。毎年、祭りのフィナーレでは、小牧市市民会館にて花火・和太鼓などとのコラボレーションが行われていました。

18 小牧市の中で一番標高が高い山はどこでしょう。

小牧市の地形は西部が低く、北東部へ進むにつれて高くなっています。北東部の最高部は天川山で、標高279.6 mであり、ここから大山川が流れ出ています。

19 入鹿六人衆の一人として活躍した落合新八郎の祖先、落合勝正が築城したのは何城でしょう。

足利氏の末裔である落合勝正は、文明年間(1469～86)に上末城(森下城)を築きました。その子安親と、安親の子庄九郎は小牧・長久手の戦いで羽柴秀吉に従いましたが、敗戦にともない2人の消息は絶え、城は廃城になりました。現在は、陶昌院に落合一族の墓があり、北側一帯に堀や土塁と思われるくぼみや段差が残っています。  
※堀・・敵が侵入できないように、城などの周りを掘った溝。  
※土塁・・敵が侵入できないように、土を盛って造られた堤防状の防御設備。

20 平成31年(2019)4月25日に小牧山にオープンした、小牧山城史跡情報館の愛称は何でしょう。

小牧山の最近の発掘調査で明らかになった、織田信長が築いた小牧山城をはじめ小牧山に関する情報を発信する施設として、平成31年(2019)4月25日に小牧山城史跡情報館(愛称：れきしるこまき)が開館しました。

21 初代小牧市長は、誰でしょう。

小牧市の歴代の市長は次のとおりです。初代：加藤諦進(昭和30年(1955)～34年(1959))、2代目：神戸眞(昭和34年(1959)～42年(1967))、3代目：舟橋久男(昭和42年(1967)～54年(1979))、4代目：佐橋薫(昭和54(1979)～平成7年(1995))、5代目：中野直輝(平成7年(1995)～23年(2011))、6代目：山下史守朗(平成23年(2011)～)

22 小牧では、小牧インターチェンジと小牧東インターチェンジから高速道路を利用できます。平成26年(2014)～29年(2017)にかけて、それぞれの出入口の中で最も利用台数が多かったのは、どこでしょう。

平成26年(2014)～29年(2017)のデータでは、小牧インターチェンジは出口・入口ともに毎年平均約700万台の利用がありますが、出口の方が数万台ほど多く利用されています。小牧東インターチェンジは出口が約170万台、入口は150万台ほどの利用があります。

23 現在、下末にある中部管区警察学校と愛知県警本部機動隊が置かれている場所は、かつては名古屋陸軍幼年学校がありました。この陸軍幼年学校に在学していた人物は誰でしょう。

加賀乙彦は、作家でもあり、精神科医でもあります。代表作は「宣告」「フランドルの冬」などがあります。陸軍の将校を目指し、陸軍幼年学校に入学しましたが、そこで終戦を迎えます。関東大震災直後の混乱の最中に発生した社会主義思想家の殺害事件(甘粕事件)の被害者大杉栄も、この陸軍幼年学校に2年間在学してしていました。

24 平成30年度に東海ブロック(愛知県・三重県・岐阜県・静岡県)で行われた全国高等学校総合体育大会(インターハイ)で、小牧市のパークアリーナ小牧をメイン会場として行われた競技は何でしょう。

小牧市では、初の開催となるインターハイが、平成30年度にパークアリーナ小牧で開かれました。バスケットボール女子の試合が行われ、愛知県代表の桜花学園高等学校が優勝しました。

25 現在の小牧駅は、何代目でしょう。

大正9年(1920)に小牧駅一岩倉駅間が小牧線として開通しました。このときの小牧駅が初代です。昭和6年(1931)に上飯田駅一新小牧駅一犬山駅間が大曾根線として開通すると、昭和20年(1945)、旧小牧線小牧駅が廃止され、新小牧駅が小牧駅と名前を変えました。これが二代目。そして、現在の地下式の駅が三代目となります。

26 小牧市には、狐にまつわる多くの伝説が残っています。その中でも、小牧山に住んでいたとされる狐の親分「吉五郎」は、今では小牧市立図書館のシンボルになっています。吉五郎の好きなことは何でしょう。

小牧市には、狐にまつわる多くの伝説が残っています。その中でも特に有名な小牧山に住んでいたとされる狐の親分「吉五郎」の伝説は、江戸時代に作られたものと言われています。吉五郎はいたずらが大好きで、辺りの村人のご馳走を盗んでしまったり、美しい女の人に化けたりしていたずらを楽しんでいました。

27 南外山公園は、南外山遺跡の上につくられた公園で、遺跡の発掘調査をした際の成果をもとに、遺跡のイメージを二つ表現しています。一つは土塁ですが、もうひとつは何を表現しているでしょう。

南外山遺跡は、平成元年度に行った遺跡詳細分布調査で発見された遺跡です。縄文時代から弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代にわたる遺構や遺物が出土しています。この遺跡には、南外山城の範囲が含まれています。南外山城は、いつできたのかははっきりとわかっていませんが、鎌倉時代の終わり頃まであったといわれていて、発掘調査では城の堀のあとが見つかっています。公園内には、タイルを使って堀の形を地面に表現し、その北側には土塁をイメージした土の高まりをつくっています。

28 小牧市マスコットキャラクター「こまき山」の口癖は、何でしょう。

小牧市マスコットキャラクターの「こまき山」は夢に向かって挑戦する力士です。応援されると強くなり、応援されないと気にしてしまう寂しがり屋の一面もあります。口癖は「どすこまき」、得意技は「どすこまき落とし」です。

29 入鹿池が造られたころ、入鹿池周辺を治めていたのは誰でしょう。

江戸時代、入鹿池の周辺は尾張藩の一部であり、犬山城の城主が治めていました。入鹿池が造られた寛永9年(1632)～10年(1633)の犬山城主は、成瀬正虎です。

30 太平洋戦争末期の昭和20年(1945)8月3日の昼、小牧は米軍機グラマンの空襲にあい、3名の尊い命が失われました。この空襲で標的となった場所はどこでしょう。

太平洋戦争末期は、名古屋や春日井でも空襲の被害を受け、名古屋にあった愛知時計や春日井にあった鷹来工廠も米軍による攻撃の的となりました。小牧にあった塚原毛織工場は、戦争中に銃弾の部品を作る工場へと転換しましたが、米軍機グラマンの空襲にあい、当時15才の男子中学生1名と、当時7才と4才の姉妹が亡くなっています。

※空襲・・・飛行機から爆弾などを落とされる攻撃。

※工廠・・・軍隊が直接指揮・管理している、武器・弾薬などの開発や製造、修理などを行う工場施設。

- 31 昭和30年代頃まで、新木津用水と大山川の合流する地点にあった、水量を調節する仕組みを何と呼んでいたでしょう。

新木津用水と大山川が二重堀で合流するため、特に新木津用水側の水量を確保する目的で、「運天」と呼ばれる、板を回転させて水量を調節する仕組みが設置されました。現在は、サイフォンで、新木津用水が大山川の下をくぐる仕組みに改修されています。

※サイフォン・・・高さの違う二つの液面を、液体で満たした管でつなぐと、高いほうから低いほうへと流れる。この働きを利用して、川や道路などの下をくぐって水を送る方法をサイフォン(または逆サイフォン)という。

- 32 平成5年(1993)8月、市民四季の森に、あるスポーツの専用コースが誕生しました。そのスポーツとは何でしょう。

平成5年(1993)8月、ディスクゴルフのできる数少ない施設として、市民四季の森に日本初のディスクゴルフ場がオープンしました。全部で18ホールあり、自然に囲まれた中でプレイを楽しめます。また、ハンディキャップのスタート地点も設けてあるので初心者でも楽しめる施設です。

- 33 小牧市出身の体操選手である寺本明日香さんが、出場したオリンピック大会は、どこで開催された大会でしょう。

寺本明日香さんは、小牧市出身の体操選手です。美しくダイナミックな演技で、日本の体操女子のエースとして、平成24年(2012)開催のロンドンオリンピックと平成28年(2016)開催のリオデジャネイロオリンピックで大活躍しました。

- 34 北里小学校の正門の東側には「忠魂碑」があります。その「忠魂碑」という文字を書いたのは、小牧市出身の陸軍大將で昭和11年(1936)に発生した二・二六事件により犠牲となった人物です。その人物はだれでしょう

渡辺錠太郎(明治7年(1874)～昭和11年(1936))は、明治33年(1900)に陸軍大学校を卒業し、明治37年(1904)の日露戦争にも参加しています。昭和6年(1931)に陸軍大將となり、昭和10年(1935)には陸軍教育総監となりましたが、二・二六事件で殺されました。※忠魂碑・・・戦争で戦死した人を吊う石碑。



35 小牧の市立中学校で、<sup>そうりつ</sup>創 立が一番新しい学校はどこでしょう。

ひかりがおか                      どうかだい                      けんせつ  
光ヶ丘中学校は、桃花台ニュータウンの建設にともない人口が増えたため、小牧市内で9番目の中学校として平成2年(1990)に新たに開校しました。

36 小牧地区にある<sup>さいりんじ</sup>西林寺の山門と、その西側にある<sup>いなり</sup>西町の稲荷堂は、名古屋市内の有名な寺院にあったものを<sup>いちく</sup>移築したものです。その寺院はどこでしょう。

元々小牧山の南西にあった<sup>さいりんじ</sup>西林寺は、<sup>かんえい</sup>寛永6年(1629)2月の火事によって焼失しました。山門の<sup>とびら</sup>扉や<sup>かわら</sup>瓦には、<sup>とくがわ</sup>徳川家の家紋である<sup>かもん</sup>三つ葉<sup>あおい</sup>葵が見られます。西町の<sup>いなり</sup>稲荷堂は、内部の<sup>そうしよく</sup>装飾などが華麗で<sup>かれい</sup>貴重な<sup>きちよう</sup>存在で、小牧市の<sup>ゆうけいぶん</sup>有形文化財に<sup>かざい</sup>指定されています。ともに、名古屋市東区の<sup>けんちゆうじ</sup>建中寺(尾張<sup>おわり</sup>徳川家の<sup>ぼだいじ</sup>菩提寺)にあったものを<sup>いちく</sup>移築したものです。

37 小牧市にある<sup>きゆうせい</sup>高等学校の中で、<sup>きゆうせい</sup>旧制中学校として大正時代に開校した最も古い高等学校はどれでしょう。

愛知県立小牧高等学校は、<sup>そうりつ</sup>創立以来90年以上を<sup>ほこ</sup>誇る小牧市内で最も古い高等学校です。大正13(1924)年に開校した<sup>きゆうせい</sup>旧制の愛知県小牧中学校と昭和17(1942)年に開校した小牧町立小牧高等女学校を前身としています。

38 <sup>あじおか</sup>味岡地区の<sup>ひがしたなか</sup>東田中には、<sup>こふん</sup>古墳時代に<sup>ぐん</sup>古墳群が<sup>そんざい</sup>存在していましたが、今は<sup>ほう</sup>方墳が<sup>き</sup>1基残っているだけです。現存する<sup>ふく</sup>1基を含めて、古墳時代にはいくつ古墳があったでしょう。

かつて、一辺20メートルほどの<sup>き</sup>3基の<sup>ほうふん</sup>方墳が、国道155号沿いの<sup>ぞ</sup>東田中<sup>ひがしたなか</sup>老人<sup>いこ</sup>憩いの家のすぐ西側にありました。しかし、国道の<sup>かくふく</sup>拡幅工事にともない<sup>そ</sup>2基が<sup>しょうめつ</sup>消滅してしまいました。これらを<sup>こふんぐん</sup>三ツ山古墳群と言います。

39 小牧市のマスコットキャラクター「こまっきー」は、何を記念して<sup>たんじょう</sup>誕生したのでしょうか。

「こまっきー」は小牧市<sup>しせい</sup>制50周年記念事業で<sup>たんじょう</sup>誕生した、小牧市の花ツツジをモチーフにしたマスコットキャラクターです。ちなみに馬をモチーフにした「コマッキー」は小牧・<sup>どうかだい</sup>桃花台アーバンフェア'91で、小牧山をモチーフにした「こまき山」は市制60周年記念事業で、それぞれ誕生したキャラクターです。

40 小木地区にある宇都宮神社には何という神様がまつられているでしょう。

宇都宮神社は、「1504年に織田宰相が越前国から移住のときに、下野の国宇都宮を遷して氏神とあおいだ」と伝えられており、大名持神のほかに、天照皇大神、少彦名神がまつられています。

41 昭和40年(1965)、日本で初めての高速道路が完成しました。この高速道路の名前は何でしょう。

名神高速道路は日本で初めての高速道路として、昭和40年(1965)に全線開通しました。その後、昭和43年(1968)に東名高速道路が一部開通すると、小牧は関東と関西を結ぶ交通の要衝となりました。物流を担う車両が集まるトラックターミナルが小木に完成し、倉庫も数多くできました。

※要衝・・・交通や産業などにおいて重要な場所。

42 昭和6年(1931)に、小牧・上飯田間に鉄道が開通しました。このとき走っていた列車は、何を燃料として走っていたのでしょうか。

昭和6年(1931)に、小牧・上飯田間に鉄道が開通した時、この路線は非電化路線で、キボ50形気動車という定員50人のガソリンカーが走っていました。

43 小牧市が地域ブランドPRグッズとして販売しているものはどれでしょう(令和元年度現在)。

小牧市が地域ブランドPRグッズとして販売しているものは、「プラスチックコップ」「タンブラー」「ビニール傘」「手ぬぐい」です。これらのグッズはシティプロモーション課(小牧市役所本庁舎3階)、味噌市民センター、北里市民センター、東部市民センターにて販売しています(タンブラーはシティプロモーション課窓口のみの販売です)(令和元年度現在)。

44 小牧市が販売しているこまきプレミアム商品券には、共通券と専用券があります。どの取扱加盟店でも使える共通券は、どのような名前でしょう。

こまきプレミアム商品券には、全取扱加盟店で使える「共通券」(えーなも券)と、小規模取扱加盟店のみで使える「専用券」(いーなも券)があります。

- 45 おわり 尾張三山の一つである白山は、山頂に社殿があり、ふもとの旧野口村がまつっていました。その神事で、山頂まで上げられていた動物は何でしょう。

白山社は、篠木荘33ヶ村の氏神とされ、ふもとの旧野口村がまつてきました。農耕馬を飾り、白山山頂まで馬上げを行っていましたが、戦後に途絶えてしまいました。

- 46 明治41年(1908)に誕生した篠岡村の村役場の跡地に現在建てられているのは、何の施設でしょう。

大草村、大野村、池林村、陶村が合併してできた篠岡村の村役場は、4つ村の中心地、現在の篠岡児童館のある場所に建築されました。

- 47 平成27年(2015)に小牧市制60周年を記念して誕生した小牧市マスコットキャラクター「こまき山」は、ある人物が相撲好きであったというエピソードを元にデザインされました。その人物とは、だれでしょう。

「こまき山」は、小牧市のシンボルである小牧山をモチーフとしたキャラクターで、小牧山に城を築いた織田信長が相撲好きだったというエピソードを元に、夢に向かって挑戦する力士の姿としてデザインされました。夢に向かって挑戦する人を応援していて、市内の幼稚園や小学校・お祭りなどに巡業して子どもたちと触れ合いながら、フェイスブックで情報を発信したり、イベントに参加したりと、小牧市を多くの人へPRするために活躍しています。

- 48 南外山の八幡社の参道には朱塗りの鳥居があります。広島県の厳島神社や福井県の気比神宮の鳥居と形が似ていますが、何という鳥居でしょう。

八幡社の二の鳥居は、小牧市内でも、4例しかないめずらしい形の鳥居で、両部鳥居といいます。2本の本柱の前後にそれぞれ低い控え柱を設け、貫で連結したものです。広島県の厳島神社や福井県の気比神宮の鳥居と形が似ています。

49 <sup>しのおか</sup>篠岡地区には、<sup>すえ</sup>小学校5校(陶小・<sup>ももがおか</sup>桃ヶ丘小・<sup>しのおか</sup>篠岡小・<sup>おおしろ</sup>大城小・<sup>ひかりがおか</sup>光ヶ丘小)があります。この中で創立が一番古い小学校はどこでしょう。

開校した年は、次のとおりです。<sup>しのおか</sup>篠岡小(明治42年(1909))・<sup>ももがおか</sup>桃ヶ丘小(昭和51年(1976))・<sup>すえ</sup>陶小(昭和60年(1985))・<sup>ひかりがおか</sup>光ヶ丘小(昭和63年(1988))・<sup>おおしろ</sup>大城小(平成2年(1990))。

また、中学校は3校あり、開校した年は、次のとおりです。<sup>しのおか</sup>篠岡中(昭和22年(1947))・<sup>とうりょう</sup>桃陵中(昭和57年(1982))・<sup>ひかりがおか</sup>光ヶ丘中(平成2年(1990))。

50 <sup>てんしょう</sup>米野小学校から南へ900メートルほどのところにある橋の名前は、天正12年(1584)の<sup>ながくて</sup>小牧・長久手の戦いに由来があります。今も地名が残る、この橋の名前は何でしょう。

<sup>ながくて</sup>小牧・長久手の戦いで、<sup>おだのぶかつ</sup>織田信雄・<sup>とくがわいえやす</sup>徳川家康連合軍の兵士が<sup>はしばひでよし</sup>羽柴秀吉軍の動きを知らせるため小牧山に向かっていたところ、この地で<sup>てつぱう</sup>鉄砲で撃たれて死んでしまいました。そのとき、「<sup>てき</sup>敵をうたずに死ぬのは残念」と言い残したことから「<sup>うたず</sup>不発橋」という名前がついたという言い伝えがあります。

51 <sup>のうび</sup>約400年ほど前に、濃尾平野に広がる<sup>あるえ</sup>あれ地に用水を引き、多くの田畑を開きたいと考えた人々(入鹿六人衆)が、寛永10年(1633)に<sup>いんしか</sup>犬山の入鹿村の南口をせき止めてため池(入鹿池)をつくり、入鹿用水が引かれることになりました。入鹿六人衆とはだれでしょう。

<sup>いんしか</sup>入鹿六人衆は、<sup>えど</sup>江戸時代初期の<sup>おわり</sup>尾張東北部の農民のまとめ役で、<sup>えさきぜん</sup>江崎善左衛門、<sup>ぎえもん</sup>船橋仁左衛門、<sup>ふなはしにぎえもん</sup>丹羽又兵衛、<sup>にわまたべえ</sup>鈴木久兵衛、<sup>すずききゅうべえ</sup>落合新八郎、<sup>おちあいしんぱちろう</sup>鈴木作右衛門の6人です。丹羽又兵衛以外は<sup>ぶし</sup>武士の出ということが分かっています。六人衆の中心である<sup>おわり</sup>江崎善左衛門は、<sup>おわりのくにかすがい</sup>尾張国春日井郡小牧村の郷土で、その父親は<sup>おだ</sup>織田家家臣として、<sup>なかせんでう</sup>名古屋から<sup>うわかいどう</sup>中山道へ通じる<sup>しゆく</sup>上街道の<sup>かい</sup>小牧宿の開設に力を尽くし、<sup>ほんじん</sup>本陣を務めました。

52 小牧市を「北<sup>きたさと</sup>里<sup>しのおか</sup>地区」・「小<sup>あじおか</sup>牧<sup>しのおか</sup>地区」・「味<sup>あじおか</sup>岡<sup>しのおか</sup>地区」・「篠<sup>しのおか</sup>岡<sup>しのおか</sup>地区」の4つの地区に分けたとき、1985年から2015年までの30年間で人口が最も増えたのはどこの地域でしょう。

人口が一番増えた篠<sup>しのおか</sup>岡<sup>しのおか</sup>地区は、桃花<sup>とうかだい</sup>台<sup>とうかだい</sup>ニュータウンの造<sup>ぞうせい</sup>成<sup>ぞうせい</sup>などで住宅地が増えたため、1985年から2015年まで約2倍増加しています。

53 明治39年(1906)、全国<sup>がっぺい</sup>町村<sup>がっぺい</sup>合<sup>がっぺい</sup>併<sup>がっぺい</sup>で小<sup>あじおか</sup>牧<sup>あじおか</sup>町<sup>あじおか</sup>、味<sup>あじおか</sup>岡<sup>あじおか</sup>村<sup>あじおか</sup>、篠<sup>しのおか</sup>岡<sup>しのおか</sup>村<sup>しのおか</sup>は、どの郡<sup>ぞく</sup>に属していたでしょう。

現<sup>げんざい</sup>在<sup>げんざい</sup>の小<sup>あじおか</sup>牧<sup>あじおか</sup>市の元<sup>げんざい</sup>とな<sup>げんざい</sup>った小<sup>あじおか</sup>牧<sup>あじおか</sup>町<sup>あじおか</sup>、味<sup>あじおか</sup>岡<sup>あじおか</sup>村<sup>あじおか</sup>、篠<sup>しのおか</sup>岡<sup>しのおか</sup>村<sup>しのおか</sup>、北<sup>きたさと</sup>里<sup>しのおか</sup>村<sup>きたさと</sup>のうち、小<sup>あじおか</sup>牧<sup>あじおか</sup>町<sup>あじおか</sup>、味<sup>あじおか</sup>岡<sup>あじおか</sup>村<sup>あじおか</sup>、篠<sup>しのおか</sup>岡<sup>しのおか</sup>村<sup>しのおか</sup>は東<sup>かすがい</sup>春<sup>かすがい</sup>日<sup>かすがい</sup>井<sup>かすがい</sup>郡<sup>かすがい</sup>に、北<sup>ぞく</sup>里<sup>ぞく</sup>村<sup>ぞく</sup>は西<sup>えど</sup>春<sup>えど</sup>日<sup>えど</sup>井<sup>えど</sup>郡<sup>えど</sup>に属<sup>ぞく</sup>していま<sup>えど</sup>した。江<sup>こあざ</sup>戸<sup>こあざ</sup>時<sup>こあざ</sup>代<sup>こあざ</sup>の村<sup>こあざ</sup>絵<sup>こあざ</sup>図<sup>こあざ</sup>によ<sup>こあざ</sup>れば、小<sup>こあざ</sup>牧<sup>こあざ</sup>市<sup>こあざ</sup>には小<sup>こあざ</sup>牧<sup>こあざ</sup>村<sup>こあざ</sup>など36村<sup>こあざ</sup>があ<sup>こあざ</sup>り、小<sup>こあざ</sup>字<sup>こあざ</sup>が908あ<sup>こあざ</sup>ったこ<sup>こあざ</sup>とがわ<sup>こあざ</sup>かりま<sup>こあざ</sup>す。「小<sup>こあざ</sup>牧<sup>こあざ</sup>〇<sup>こあざ</sup>丁<sup>こあざ</sup>目<sup>こあざ</sup>」のよ<sup>こあざ</sup>うな町<sup>こあざ</sup>名<sup>こあざ</sup>は、昭<sup>へんこう</sup>和<sup>へんこう</sup>の中<sup>へんこう</sup>頃<sup>へんこう</sup>から変<sup>へんこう</sup>更<sup>へんこう</sup>され<sup>へんこう</sup>てき<sup>へんこう</sup>たもの<sup>へんこう</sup>です。

54 上<sup>かみずえ</sup>末<sup>かみずえ</sup>地区<sup>かみずえ</sup>には、小<sup>ながくて</sup>牧<sup>ながくて</sup>・長<sup>ひごう</sup>久<sup>ひごう</sup>手<sup>ひごう</sup>の戦<sup>ひごう</sup>いで非<sup>おちあい</sup>業<sup>おちあい</sup>の死<sup>おちあい</sup>をと<sup>おちあい</sup>げ<sup>おちあい</sup>た落<sup>おちあい</sup>合<sup>おちあい</sup>一<sup>おちあい</sup>族<sup>おちあい</sup>を悼<sup>いた</sup>み建<sup>いた</sup>て<sup>いた</sup>ら<sup>いた</sup>れた祠<sup>ほこら</sup>があります。この祠<sup>ほこら</sup>は何<sup>よ</sup>と呼<sup>よ</sup>ばれてい<sup>よ</sup>るで<sup>よ</sup>しょう。

小<sup>ながくて</sup>牧<sup>ながくて</sup>・長<sup>ころ</sup>久<sup>ころ</sup>手<sup>ころ</sup>の戦<sup>ころ</sup>いの後<sup>ころ</sup>、いつ<sup>ほこら</sup>の頃<sup>ほこら</sup>からか、地<sup>ほこら</sup>元<sup>ほこら</sup>の人<sup>ほこら</sup>たち<sup>ほこら</sup>が、高<sup>ほこら</sup>台<sup>ほこら</sup>に祠<sup>ほこら</sup>を<sup>ほこら</sup>建<sup>ほこら</sup>て、周<sup>ほこら</sup>りにツ<sup>ほこら</sup>ツ<sup>ほこら</sup>ジ<sup>ほこら</sup>の木<sup>ほこら</sup>を植<sup>ほこら</sup>えてま<sup>ほこら</sup>つるよ<sup>ほこら</sup>うにな<sup>ほこら</sup>り、お<sup>ほこら</sup>つ<sup>ほこら</sup>つ<sup>ほこら</sup>じ<sup>ほこら</sup>様<sup>ほこら</sup>と呼<sup>ほこら</sup>ばれるよ<sup>ほこら</sup>うにな<sup>ほこら</sup>ったとい<sup>ほこら</sup>われ<sup>ほこら</sup>ていま<sup>ほこら</sup>す。元<sup>ほこら</sup>は、も<sup>ほこら</sup>う少<sup>ほこら</sup>し南<sup>ほこら</sup>に位<sup>ほこら</sup>置<sup>ほこら</sup>していま<sup>ほこら</sup>した<sup>ほこら</sup>が、東<sup>ほこら</sup>名<sup>ほこら</sup>高<sup>ほこら</sup>速<sup>ほこら</sup>道<sup>ほこら</sup>路<sup>ほこら</sup>の工<sup>ほこら</sup>事<sup>ほこら</sup>によ<sup>ほこら</sup>り現<sup>げんざい</sup>在<sup>げんざい</sup>の場<sup>うつ</sup>所<sup>うつ</sup>に移<sup>うつ</sup>され<sup>うつ</sup>まし<sup>うつ</sup>た。

55 藤<sup>ふじしまちょう</sup>島<sup>ふじしまちょう</sup>町<sup>ふじしまちょう</sup>にあ<sup>けんりんじ</sup>る賢<sup>けんりんじ</sup>林<sup>けんりんじ</sup>寺<sup>けんりんじ</sup>では、天<sup>てんだいだいし</sup>台<sup>てんだいだいし</sup>大<sup>てんだいだいし</sup>師<sup>てんだいだいし</sup>の命<sup>てんだいだいし</sup>日<sup>てんだいだいし</sup>にあ<sup>てんだいだいし</sup>たる毎<sup>てんだいだいし</sup>年<sup>てんだいだいし</sup>11月<sup>てんだいだいし</sup>24日<sup>てんだいだいし</sup>に法<sup>てんだいだいし</sup>要<sup>てんだいだいし</sup>が行<sup>てんだいだいし</sup>われ<sup>てんだいだいし</sup>ていま<sup>てんだいだいし</sup>す。そ<sup>てんだいだいし</sup>の法<sup>てんだいだいし</sup>要<sup>てんだいだいし</sup>のこ<sup>てんだいだいし</sup>とを何<sup>てんだいだいし</sup>とい<sup>てんだいだいし</sup>うで<sup>てんだいだいし</sup>しょう。

天<sup>てんだいだいし</sup>台<sup>てんだいだいし</sup>大<sup>てんだいだいし</sup>師<sup>てんだいだいし</sup>とは、中<sup>しゅう</sup>国<sup>しゅう</sup>天<sup>しゅう</sup>台<sup>しゅう</sup>宗<sup>しゅう</sup>を開<sup>しゅう</sup>いた僧<sup>そうりよ</sup>侶<sup>そうりよ</sup>である智<sup>ちぎ</sup>顛<sup>ちぎ</sup>のこ<sup>ちぎ</sup>とで<sup>ちぎ</sup>す。智<sup>ちぎ</sup>顛<sup>ちぎ</sup>の命<sup>ちぎ</sup>日<sup>ちぎ</sup>に開<sup>ちぎ</sup>かれる天<sup>でんぎょうだいしさいちょう</sup>台<sup>でんぎょうだいしさいちょう</sup>会<sup>でんぎょうだいしさいちょう</sup>は、日<sup>なら</sup>本<sup>なら</sup>天<sup>なら</sup>台<sup>なら</sup>宗<sup>なら</sup>を開<sup>なら</sup>いた伝<sup>だんぎょうだいしさいちょう</sup>教<sup>だんぎょうだいしさいちょう</sup>大<sup>だんぎょうだいしさいちょう</sup>師<sup>だんぎょうだいしさいちょう</sup>最<sup>さいちょう</sup>澄<sup>さいちょう</sup>が奈<sup>なら</sup>良<sup>なら</sup>の七<sup>なな</sup>大<sup>なな</sup>寺<sup>なな</sup>(興<sup>こうふくじ</sup>福<sup>こうふくじ</sup>寺<sup>こうふくじ</sup>、東<sup>とうだいじ</sup>大<sup>とうだいじ</sup>寺<sup>とうだいじ</sup>、西<sup>さいだいじ</sup>大<sup>さいだいじ</sup>寺<sup>さいだいじ</sup>、薬<sup>やくしじ</sup>師<sup>やくしじ</sup>寺<sup>やくしじ</sup>、元<sup>がんごうじ</sup>興<sup>がんごうじ</sup>寺<sup>がんごうじ</sup>、大<sup>だいあんじ</sup>安<sup>だいあんじ</sup>寺<sup>だいあんじ</sup>、法<sup>ほうりゅうじ</sup>隆<sup>ほうりゅうじ</sup>寺<sup>ほうりゅうじ</sup>)から高<sup>まね</sup>僧<sup>まね</sup>を招<sup>みょうほうれんげきょう</sup>いて、妙<sup>みょうほうれんげきょう</sup>法<sup>みょうほうれんげきょう</sup>蓮<sup>みょうほうれんげきょう</sup>華<sup>みょうほうれんげきょう</sup>経<sup>みょうほうれんげきょう</sup>の<sup>みょうほうれんげきょう</sup>内<sup>みょうほうれんげきょう</sup>容<sup>みょうほうれんげきょう</sup>につ<sup>みょうほうれんげきょう</sup>いて講<sup>こうぎ</sup>義<sup>こうぎ</sup>をし<sup>こうぎ</sup>たこ<sup>こうぎ</sup>とから<sup>こうぎ</sup>はじ<sup>こうぎ</sup>ま<sup>こうぎ</sup>ったと<sup>こうぎ</sup>され<sup>こうぎ</sup>ていま<sup>こうぎ</sup>す。賢<sup>けんりんじ</sup>林<sup>けんりんじ</sup>寺<sup>けんりんじ</sup>では、天<sup>けんりんじ</sup>台<sup>けんりんじ</sup>会<sup>けんりんじ</sup>を毎<sup>けんりんじ</sup>年<sup>けんりんじ</sup>行<sup>けんりんじ</sup>っていま<sup>けんりんじ</sup>すが、い<sup>けんりんじ</sup>つ<sup>けんりんじ</sup>か<sup>けんりんじ</sup>ら行<sup>けんりんじ</sup>わ<sup>けんりんじ</sup>れ<sup>けんりんじ</sup>てい<sup>けんりんじ</sup>るか<sup>けんりんじ</sup>は不<sup>けんりんじ</sup>明<sup>けんりんじ</sup>と<sup>けんりんじ</sup>のこ<sup>けんりんじ</sup>とで<sup>けんりんじ</sup>す。

56 昭和26年(1951)頃、伴徳弘が甲子座跡地(現在の小牧二丁目)の北東に開業した劇場の名は何でしょう。

大正期に小桜座(現在の小牧)と甲子座(現在の小牧二丁目)が小牧町の南北にでき、庶民の娯楽の場としてにぎわいました。昭和12年(1937)には、小桜座を買い取った三輪氏が、小牧劇場を開業して映画を上映しています。昭和26年(1951)に甲子座跡地の北東で営業を開始したカムカム劇場は、映画の上演を主に、時折奇術なども行われていたそうです。その後、昭和42年(1967)に中日本興業と合併、1階をひかり劇場、2階をアサヒ劇場として営業を続けましたが、昭和47年(1972)に廃業しています。

57 小牧市の花は「ツツジ」です。花はどのような形をしているでしょう。

小牧市は、昭和47年(1972)に市の花を「ツツジ」と決めました。開花時期である5～6月には、小牧山がツツジの花で彩られます。



58 小牧市のシンボルマークである市章はどのような形をしているでしょう。

小牧市の市章は、昭和30年(1955)につくられました。左から、かたかなで「コマキ」を表しています。また全体は、飛行機の正面を表しています。小牧市が将来へ飛躍していくという意味がこめられています。



59 大草にある「市民四季の森」に、平成29年(2017)にできた施設は何でしょう。

ソリスベリの丘、ちびっこ動物村、わんぱく冒険広場などに加えて、平成29年(2017)新たに「ボルダリングウォール」が多目的広場に設置されました。



60 小牧市はどのような形をしているでしょう。

小牧市は東西に長く、このような形をしています。



出題に関わる参考文献

『小牧市史』

『小牧の文化財』

『小牧叢書』

『小牧散歩』

『小牧の文化財散歩』

『小牧の寺院』

『小牧の神社』

『小牧の文化財地図 訪ね歩きマップ』

『社会科副読本 こまき』

『社会科副読本 小牧』

『こまきプレミアム商品券紹介ポスター(小牧商工会議所発行)』

『遺跡解説板(南外山公園)』

『小牧市統計年鑑』